



双塔

カトリック新潟教会

2018年11月
No. 366

死者のために祈ること

協力司祭 ロレンゾ・ホセ・ルイス

子供のころの一つの思い出は祖母の幽霊についての話でした。いや、幽霊よりも、森にいる小人とか、または森にいる見えない人たちとか、という話はよく祖母が子供の私たちに語ってくれました。その一つは、兄弟の話でした。ある兄弟がお互い約束を交わしたそうです。それは、先に亡くなった人は、残っている兄弟に他界にいるしるしを何かの形でお知らせする、とのことでした。兄が死んで、その二日後の朝、弟が目覚めると、なんとベッドの上の壁に手のマークが刷り込まれているのが見えたという話でした。さらに、これは実話だと、祖母が言いました。親戚の方のことだったそうです。

私は長岡にいたころ、ある技能実習生のグループが教会にきて、自分たちの住んでいるアパートを祝別してほしいとの依頼でした。たまには誰もいないはずの場所で人の影とか、音が聞こえるということがあって、彼女たちはちょっと不安でした。もしかしたら、幽霊ではないか、と。私が彼女たちに説明したのは、祈りを必要をとしている亡くなった人たちは、生きている私たちに祈りを求めているのだから、彼らの存在を感じられるのです。たまにはその望みは驚くべきかたちで表れます。だいぶ前の話ですが、名古屋のある家族が同じ夢をみていました。それは、兵士に追われている夢でした。不思議なのは父、母、子供も三日間で同じ夢をみていました。いや、夢よりも悪夢でしょう。調べてみたら、息子さんがあるバザーで兵士の道具を買っていました。しかも、その兵士は第二次世界大戦で亡くなったらしいとのことでした。そのことを知った私はその家族に提案を出しました。家を祝別して、道具の持ち主のために祈りを捧げます。それをしてから、その晩の彼らの眠りは楽だったそうです。あの悪夢のことは完全に消えました。

煉獄にいる霊魂たちのために祈ることはカトリック信者の大事なつとめです。どのぐらい大事なのか、それも典礼に表されています。11月2日の死者の日には、すべての司祭はミサを三回捧げることができます。一つは個人の意向、もう一つはすべての死者のため、最後に教皇さまの意向のためです。この特権は1915年に教皇ベネディクト15世によって与えられたものです。フィリピンではこの死者の日は墓参りの時期になっています。特別な祝日になっているので、里帰りの時期にもなります。実は11月1日の諸聖人の日に、死者の日よりも多くの人が墓参りをしています。昔からの習慣ですが、皆さんは亡くなられた自分の愛する人たちはすでに天国にいるという希望をもって、1日に墓参りをしている、と私は考えたいところです。

「聖徒の交わり」は信仰宣言の一つの教義です。教会のメンバーは生きている私たちのことだけでなく、天国にいる聖人たちと煉獄にいる霊魂たちも一致になっています。聖人たちが私たちのために神様の前でとりなしてくださるのと同じように、私たちも煉獄にいる皆さんのために祈るべきです。とくにこの11月に死者のために祈りましょう。

■ 第20回新潟教区信徒大会(1) ---- 9月29日(土) ----

八郎潟の湖畔、秋田県大潟村の「ホテルサンルーラル大潟」を会場に開催された第20回新潟教区信徒大会には170名余りが参加、新潟教会からはラウル神父様はじめ7名が参加した。

テーマは「愛のよろこび」。2015年に「家庭」をテーマに開催された世界代表司教会議(シノドス)を受けて発表された使徒的勧告“Amoris Laetitia”にちなむもの。基調講演の中で菊地大司教様は「発表前の報道等で、“結婚”それも、うまくいかなかった結婚生活の問題について取り上げた勧告だという前評判があった。司教として、様々なケースについて教会がどう対処すべきかの指針を知らないわけにはいかないので、要約は読んだけれども、あの分厚い使徒的勧告そのものは読もうという気がなかなか起きず、読んでいなかった」と告白。そして「この講演をするにあたって、初めて『愛のよろこび』を手にとって読んでみた。すると、結婚や家庭生活のことも勿論なのだが、それよりも“命の大切さ”について訴えているということが分かった」と語られた。

基調講演の後、十数人ずつの小グループに分かれて分かち合いを行った。懇親会では、地元秋田地区、山形地区、長岡地区そして菊地大司教様と司祭団による余興が披露され、山形教会の参加者が花笠音頭を踊り始めると、会場全体が踊りの輪に引き込まれていった。

■ 第20回新潟教区信徒大会(2) ---- 9月30日(日) ---

二日目は4名の方々による、家庭生活と信仰生活についての分かち合いがあり、その後派遣ミサがささげられた。

おりから台風が接近中ということもあり、二日目の日程はすべて少しずつ時間が繰り上げられた。一番遠い糸魚川教会からの参加もあったことから、実行委員会では台風の実況と進路予報をにらみながら大会を運営。当初の予定より1時間早く終了、散会した。

教区大会に合わせて開催された新潟教区信徒使徒職協議会総会で、3年後の次回開催は新潟県であるが、長岡地区が担当することが発表、承認された。

あゆみ

No.92 小教区評議会

講座「知ってるつもり?! 典礼のしるし、ことば、動作」

指 導 主任司祭 ラウル神父

開催日時 2018年11月10日(土) 午前10時~11時

会 場 カトリックセンター研究室

※ 『聖ヒッポリュトスの使徒伝承』を手掛かりに典礼について学びます。

どなたでもお気軽にご参加ください。いつからでもOKです。